

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年12月22日

協議会名: 東海市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
知多乗合株式会社	(1)東海市循環バス中ルート③ 聚楽園駅前を起終点とする 23.9km (2)東海市循環バス中ルート④ 太田川駅前を起終点とする 23.9km (3)東海市循環バス南ルート⑤ 加木屋デイサービスセンターを終起点とする 22.8km (4)東海市循環バス南ルート⑥ 加木屋デイサービスセンターを終起点とする 22.3km ※車両減価償却費の補助あり	・地域間幹線系統と地域内フィーダー系統については、路線の競合が起こらないような路線設定を行っている。今後も幹線とフィーダーの競合が起こらないよう、補完・連携の方法を模索していく。 ・循環バスOD調査を実施し、利用者の動向やニーズを調査している。	A 地域公共交通会議内で、生活確保維持改善計画や改善事業について協議し、目標や効果等も確認しながら、委員の了解を得て策定・実施している。 また、事業終了後には同会議で報告を行い、今後の課題や、目標についても協議を行っている。 このことから、会議内では適切に実施されていると考える。	北ルート ※フィーダー補助なし 循環バスの利用者数 目標:13万人 実績:15万7千人 中ルート 循環バスの利用者数 目標:11万人 実績:13万8千人 南ルート 循環バスの利用者数 目標:11万人 実績:13万1千人 【総括】 循環バスの利用者数 目標:35万人 実績:42万6千人 平成28年9月より実施している75歳以上の高齢者循環バス無料化の事業により、利用者的大幅な増加となった。	平成28年8月より実施している75歳以上の高齢者循環バス無料化により、現在の利用者は想定よりも大幅に増加している。利用者の増加により、座席数の不足から立って利用している高齢者も多く、車内事故の危険性も高まっている。 また、利用者の増加により乗降時間の増加が起こり、ダイヤの定時運行が一部困難な区域もあり、利便性の低下も発生している。 今後、現在の課題を解消できるように、循環バスだけでなく地域間幹線系統である路線バスを始めとするその他の公共交通と協議・連携をしながら、解決策を模索していく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年12月22日

協議会名:	東海市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東海市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス(上野台線・横須賀線)により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。これらに対し、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。</p> <p>循環バスの利用状況は、利用者数が年々増加しており、特に平成27年5月のダイヤ等の改定や、平成28年8月から実施している75歳以上の高齢者無料化事業により、平成28年度末の利用者は38万6,330人となり、前年度より4万9千人増加した。また、平成25年度に実施したバス利用者及び市民アンケートでは、市民の82パーセントがバス交通は必要であると回答している。</p> <p>平成27年度中に整備が完了した太田川駅西地区の市街地再開発ビルと東海市芸術劇場の利用者により、太田川駅周辺は新たな「にぎわい」が生まれ、東海市の中心的交通結節拠点となっており、市内にある公共交通機関の連携がより一層もとめられている。</p> <p>今後も、平成27年度に策定した東海市地域公共交通網形成計画を推進しながら、利用者の利便性向上を図り、さらなる持続可能な公共交通体系の構築を目指しているところである。</p>

1
中部様式1

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

東海市地域公共交通会議

平成22年2月17日設置
 フィーダー系統 平成25年6月28日 確保維持計画策定

2

1. 協議会が目指す地域公共交通の姿

【地域特性】
 市内には、名古屋駅と中部国際空港を連絡する名鉄常滑線と、太田川駅と知多半島の南端を連絡する名鉄河和線により、南北の公共交通基幹軸が、隣接する大府市と太田川駅を連絡する独自路線バス（上野台線・横須賀線）により、東西の公共交通基幹軸が形成されている。

また、市内の各拠点及び公共施設や住宅地域を結びながら東西・南北の公共交通基幹軸を地域的に補完し、地域内フィーダー交通という形で、循環バスによる市内の生活交通ネットワークが形成されている。

【東海市地域公共交通網形成計画の目標及び期間】
目標：①地域の骨格を形成する公共交通の構築
 ②だれもが利用しやすい交通環境の構築
 ③公共交通間の連携強化
 ④まちづくりと連携した公共交通体系の構築
 ⑤環境や健康に配慮して、かしこく公共交通を使う
 ⑥地域で支える公共交通
 ⑦公共交通を使った高齢者の外出促進
 ⑧公共交通を使った観光や買い物での交流人口の拡大

計画の期間：平成28年度～平成35年度の8年間

2.計画の達成状況の評価に関する事項

3

【網形成計画における評価にかかる事項】

<公共交通の利用者数（鉄道、路線バス、らんらんバス）>

公共交通ネットワークの構築や交通結節点の整備、施設のバリアフリー化や情報提供など各種取り組みによって、利便性が高まることで市内の公共交通の利用者数が高齢化の進展にかかわらず増加するものと考えられます。路線バスについては、計画策定時点では利用者数が減少傾向となっていますが、ダイヤ等の見直しや改善を図り、平成26年度の水準を維持することを目指します。

<補助事業の評価にかかる部分（らんらんバス利用者数）>

平成26年度実績：30万9,884人

◆目標値

平成30年度：35万5,000人、平成35年度：36万5,000人

【確保維持改善計画における評価に係る事項】

<循環バスの利用者数>

◆目標値

平成28年度：33万人、平成29年度：34万人、平成30年度：35万人

◆実績値（平成28年4月1日～平成30年3月31日）

平成28年度：38万6,330人

◆実績値（平成28年10月1日～平成29年9月30日）

平成29事業年度：42万6,138人

評価事項については、大きく目標値を達成できていると考える。

現在は、確保維持改善計画での平成29年度（平成29年4月1日～平成30年3月31日）の利用者の目標値を39万人として設定している。

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

4

【75歳以上の高齢者の循環バス無料化】

市内在住の75歳以上の高齢者については、特別乗車証（専用のカードケースに後期高齢者保険証をいれたもの）を提示することで、循環バスが無料で乗車できることとした。

平成28年度（平成28年4月1日～平成29年3月31日）までの利用者は38万人を超え、前年同時期と比較すると、約4万人強の利用者増となっている。平成29年11月末現在で、循環バスの利用者の約1/3はこの特別乗車証の利用者である。

高齢者無料化バスケース利用状況

項目 月	平成28年度			平成29年度		
	バス利用者数 (人)	バスケース 利用者数 (人)	割合 (%)	バス利用者数 (人)	バスケース 利用者数 (人)	割合 (%)
4月	29,382	-	-	36,785	11,487	31.2
5月	29,773	-	-	36,467	11,907	32.7
6月	29,879	-	-	37,522	11,766	31.4
7月	31,576	-	-	38,404	11,819	30.8
8月	32,737	1,290	15.2	39,427	11,823	30.0
9月	32,067	8,613	26.9	36,677	11,830	32.3
10月	32,638	10,066	30.8	37,617	11,898	31.6
11月	32,737	9,086	27.8	36,796	11,026	30.0
12月	32,517	9,923	30.5	-	-	-
1月	31,235	7,885	25.2	-	-	-
2月	32,941	9,569	29.0	-	-	-
3月	38,728	11,644	30.1	-	-	-
合計	265,720	83,076	25.6	225,282	70,632	31.4

※1 平成28年度のバス利用者数合計は、比較のため4月～7月は含まない。

※2 平成28年度8月の割合は、配布を開始した27日～31日までの乗車人数から割り出したもの。

※2 割合の合計は、利用者数の合計とバスケース利用者数の合計から割り出したもの。

4. 具体的取組みに対する評価

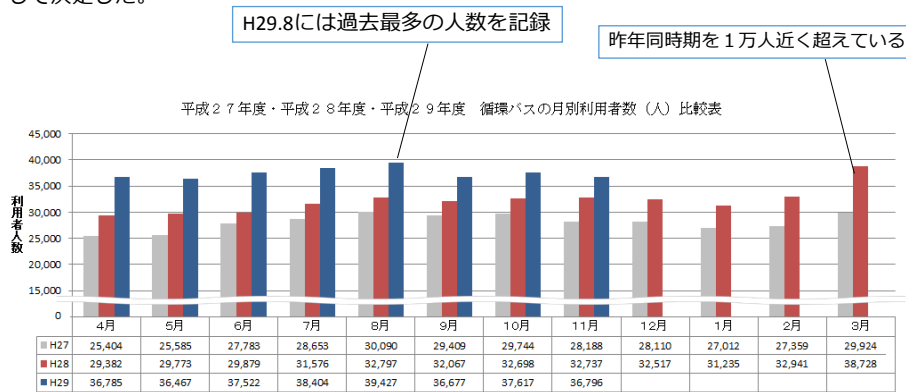
5

【75歳以上の高齢者の循環バス無料化に伴う利用者の増加について】

平成28年8月より実施している高齢者の無料化に伴い、前年同時期よりも利用者が大幅に増加した。

平成29年6月20日の公共交通会議では、増加した利用者のうち、特に高齢者の利用が多く、循環バス3ルートのうち小型バスが走行している2ルートについては、座席が少ないために立ち席利用が増加しており、車内事故の危険性が高まっていることと、利用者の増加が乗降時間の増加を招いており、ダイヤの定時運行が一部困難になっていることが協議された。

また、循環バスの利便性が下がることで、地域間幹線系統や鉄道など、他の公共交通機関との連携も難しくなることから、今後の対策について公共交通機関で協議していくことも方針として決定した。



5. 自己評価から得られた課題と対応方針

6

【利用者の増加について】

高齢者を中心として利用者が増えたことにより、乗降時間の増加を招いている。そのため、ダイヤの定時運行が困難となっている区間も多いことが明らかとなっている。

また、小型バスはバリアフリーに対応している反面、座席数が少ないことから、立ち席利用を余儀なくされている高齢者も少なからずいるため、車内事故の危険性があることも課題としてあげられる。

【利用者の声について】

平成27年5月の公立病院開院に合わせてダイヤ・ルートの一部改正したが、それ以降、利用者から様々な意見が寄せられている。

- ・ 1周あたりにかかる時間が長い（約100分）
- ・ 全てのルートで市役所に乗り入れてほしい（南ルートのみ乗り入れていない）
- ・ 便数を増やしてほしい など

【今後の対応方針】

これらの課題を受け、利用者の動向や運行状況を把握するため循環バスの定時運行調査を実施し、循環バスの現状を調査する。

また、今後、市民アンケート等で利用者等のニーズを把握・分析を行い、循環バスの課題解決に向けた見直し案について検討し、市内の公共交通の充実を図っていく。

- ・ 平成29年7月～8月 循環バス定時運行調査
- ・ 平成29年10月 公共交通会議にて調査結果の報告・対応方針について協議
- ・ 平成30年中 市民アンケート等の見直しの検討材料となる調査の実施
- ・ 見直し案の検討
- ・ 平成31年中 見直し案の検討・実施

7

中部様式2

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

東海市地域公共交通会議

平成22年2月17日設置

フィーダー系統 平成25年6月28日 確保維持計画策定

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

8

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
幹線バスとフィーダーとの取り合いになっていないか。幹線があることでフィーダーがあることを考えてほしい。競合ではなく連携・補完という考えで、一体的に考えて再編してほしい。	路線の競合が起らないような路線の設定を行っており、幹線バスの事業者とも、公共交通会議以外の場でも、幹線とフィーダーの在り方について検討・協議を重ねている。平成29年度には公共交通機関を使ったおでかけマップを作成。循環バスだけではなく、幹線バス（市外へ出るルート）で出かけるルートも掲載し、アピールしていく。	循環バスのダイヤ・ルート改正時には、今後も競合が起らないように、また、幹線とフィーダーがどのように補完・連携できるかを協議し、模索していく。
公立西知多総合病院へのバス路線の利用者など、モニタリングはきちんと実施し、公共交通利用の動向を把握していくこと。	平成29年7月～8月に循環バスの定時運行調査にて、利用者数を把握した。	今後も定期的に利用者の動向を把握する調査を実施していく。また、市民アンケート等を実施する際には、病院利用の交通手段等についても可能な範囲で調査を行う

2.アピールポイント

9

【小学生を対象としたMMの実施】

将来的な利用者の育成を目的として、市内小学校低学年を対象として、MM（バスの乗り方教室）を実施した。

平成28年度は路線バスを、平成29年度は循環バスを使用して、それぞれ乗り方（乗車券のとり方、降車の知らせ方、運賃の支払い方等）を学んでもらった。

児童の反応もよく、バスに親しんでもらうよい機会になった。

【75歳以上のバスの無料化事業】

福祉部局と連携し、高齢者の外出を促進するために75歳以上の市内在住者は循環バスを無料化することとした。専用のバスケースに後期高齢者被保険者証をセットすることで無料で乗車が可能となっている。

バスケースと被保険者証を同時に提示してもらうため、そのまま落としてなくしてしまう方も少なからずおり、対応には苦慮する部分もある。

なお、効果は絶大であり、網計画や確保維持改善計画で設定していた利用者数の目標値を大幅に上回る結果となっている。

【循環バスの車内有料広告の導入】

平成29年10月より、循環バスの車内へ有料広告を導入した。内部での取扱規定等の調整に時間を要したが、募集開始よりすぐに募集数を超える応募があった。市の広告審査会を経て、現在は2社が3ルートすべての車両内に広告を掲載しているため、需要が大きかったものと考えられる。